



るね」と言ってくれて、受け入れてくれます。ただ、アメリカには音楽を生業としていない人でも一流の演奏をする人が沢山います。そんな現実と直面すると、ショックを受けました。何の世界でもそうかもしれないが、精神的な強さや覚悟が必要です。

―大学時代は政治に接する機会はなかったのですか。

大学2年のとき、熊本に帰省した際、父親の選挙が真っ盛りの時期だったので手伝ったことがあります。「父をよろしく願います」と支援者を回りましたが、従来型の選挙のあり方に触れ「なんか違うな」と感じました。

政治が多くの人の協力で成り立っていて、利害関係で付き合っ

ている人もいれば、利害に関係なく応援してくれる人もいます。ただ、世の中の多くの人が無関心ということを感じて、「これで良い地域がつくれるはずはない。一部の人の代弁者ではない。どうすれば、一人でも多くの人に関心を持つてもらえるのか」と思いました。それが、政治に関心を持ち始めたきっかけだと思います。

―大学卒業後は商社に就職されました。

音楽の道を諦めて就職しようと考え、最初は大手広告代理店やキー局（主要テレビ局）しか受験しませんでした。ミハーな感覚で受けたところ、どこもダメでした。熊本からは「就職どうするんだ」、「熊本に帰ってこい」という

声もあつて……。それでも、親から独り立ちしたいという気持ちが強かったので、熊本に帰るのは絶対に嫌だと思って就職活動をしました。

それで、日商岩井の事業部門から独立した日商岩井メカトロニクスに就職しました。親は猛烈に反対しましたが、仕事は国内営業や輸出入もやるということで面白かったですね。実は、就職の時も親戚である園田代議士（衆議院熊本4区選出の園田博之さん）に相談したら「商社は勉強になるから、いいじゃないか」と背中を押してもらいました。

―1994年、サラリーマンを辞めて園田代議士の秘書に就かれましたね。

―結果として、離党勧告を受け、自民党を離党されました。大きな組織を離れる恐怖心は。

ありました。組織人としては批判もあると思いますが、当時は自民党が変わらなければいけないという気持ちもありましたので、幸山さんを応援しました。なんとか今の政治に風穴を開けたいという気持ちもあつたし、幸山さんは新鮮な政治をやってくれるのではないかとという期待感もありました。現実很简单ではありませんでした。30歳代前半だから後先考えずにできたと思います。今思うと怖いですが……。

―大きな決断でした。

そうですね。政治家としては大きなターニングポイントでした。そのような経験を通して、言いたいことを言って、やりたいたいことをやらないと政治家としては意味がないと感じました。

政治家としての覚悟ができたことで、その後は様々なことを曲げずに貫くことができました。

幸山さんが市長に当選後、私は12年間、無所属として県議会に活動しましたが、その時も言いたいことを言っていました。

―知らずにのうちに意識の中に政治が刷り込まれたのかもしれない。

―実際に政治の世界を見てみてどうでしたか。

官房副長官の秘書になったことで国の政治が動く様を見ることが出来ました。官邸に出入りしていましたが、国家機密に触れるようなこともありましたが、政治のダイナミズムや脆さも垣間見て、アドレナリンが出ていたと思います。そのなかでも印象に残っているのは、阪神淡路大震災に直面したこと。当時、官邸でもテレビを見て情報を集めていた状況でした。スタッフが大慌てで、「この国は大丈夫なのか」と感じました。

―そのころには政治家になる覚悟をされていたのですか。

秘書をある程度経験したら熊本で出馬するのだと思っていました。が、現実には予想よりも早かったですね。秘書になつて3年ほどたつた時、父の具合が悪くなつて入院してしまいました。医師からも「早く引退させた方がいい」という話がありました。その時、馬場三則県議が亡くなつて、県議の補欠選挙が行われる

就職して3年目の時、たまたま園田代議士の事務所にお邪魔しました。すると、代議士から「人手が足りないので手伝ってもらいたい」と言われました。当時、日本新党やさきがけなどによる多党連立政権の時でした。園田代議士から「こんなに政治が動いている時代はないので政治家になるかならないかは別にして、政治の世界を見てみないか」と誘ってもらい、即答はしなかったのですが、話を受けることにしました。

園田代議士は当時、連立政権で官房副長官を務めていました。政界再編の激動の時代で、官邸で働くチャンスは今しかないと考えて決断しました。実際に、国政の中枢で世の中が動く様を見ることができました。

―よく決断しましたね。祖父の訓造さんは大江村（現天草市天草町大江）で村長を務められるなど、政治家の家系ですね。そんな影響もあるのでしょうか。

私は祖父にとって初孫でしたので、「大西家の長男として、媚びずに、誇り高く生きなさい」と言われていました。父や私に政治の道に入ってほしいという気持ちがあつたのだと思います。そんな環境があつたので、知ら

―秘書をある程度経験したら熊本で出馬するのだと思っていました。が、現実には予想よりも早かったですね。秘書になつて3年ほどたつた時、父の具合が悪くなつて入院してしまいました。医師からも「早く引退させた方がいい」という話がありました。その時、馬場三則県議が亡くなつて、県議の補欠選挙が行われる

―自身は、当初は勝てるとは思いませんでした。出馬するの聞いた時、最初は止めたのですが、幸山さんはすでに決意していた。そして「この男が勝負するとき、自分は動かなくていいのか」と考えました。変に男気を出してしまつて……。政治に変革は必要だと思っていたので、「この挑戦に乗ってみよう」と判

―自身は、当初は勝てるとは思いませんでした。出馬するの聞いた時、最初は止めたのですが、幸山さんはすでに決意していた。そして「この男が勝負するとき、自分は動かなくていいのか」と考えました。変に男気を出してしまつて……。政治に変革は必要だと思っていたので、「この挑戦に乗ってみよう」と判

―自民党は現職・三角さんを推薦しました。党の推薦決定前に幸山さん支持を明らかにされていきました。

自民党のなかにも、幸山さんを応援してくれる人がいるかもしれないと考えていましたが、現実にはなかなか厳しかったですね。